

2019年度 研究所事業報告書

研究所名	生存学研究所
------	--------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5ヵ年)および2019年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうできるだけわかりやすく記述してください。なお、2019年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式Bに記述のうえ提出してください。

大学の研究所は何をするか何であるべきか→1) 知の収蔵と公開の場所であり、本研究所はその一つの拠点であろうとする。2) 大学という組織自体が人的にも多様性に開かれているべきであり、本研究所は、本学への貢献も含め、それに貢献する。3) 世界に広がりを作っていく、本研究所はその拠点であり中継の場であろうとする。これが本プロジェクトの3つに対応している。この3つについては各々についての報告で報告される。以下では、これらの全体に関わる体制・態勢について報告する。

◇客員協力研究員の数は104名となった。本学で博士号を取得した人たちが数として多い。その他にも研究所の企画に関心を有する様々の人たちが参加してくれている。患者団体の役員、非営利組織の経営者、新聞記者、議員、など職業的研究者以外の人たちも多くなっている。また、韓国、フランスの研究者も含んでいる。

◇雑誌として2つを刊行している。その一つ『生存学研究』の第3号はアーカイブを特集した号となった。『Ars Vivendi Journal』はオンラインで刊行されている英語雑誌で、世界中から投稿が可能であり、また世界中からアクセスできる。投稿論文だけでなく、下記する国際セミナーにおける報告等についても掲載していく方向である。

◇2つのサイトの一つ(<http://www.arsvi.com/>)へのアクセスは年間で3000万ヒットに達した。それは組織と組織の活動を広報するというだけでなく(こちらの役割は主に <https://www.ritsumei-arsvi.org/>が担っている)、その構築・更新の作業自体が研究所の活動の本体であり、そこに参加するメンバーの研究の下地となり、ときに成果そのものである。例えば博士論文を著書とした院生(現在は客員研究員)が論文に使った膨大な行政文書などを書籍と別にHPに掲載するといったことを行なっている。

◇サイト全般の頁の製作・更新を多くの大学院生が担当している。その年その年の事件についての特集頁も作成し、HP表紙から容易にたどれるようにした。毎年起こることをきちんと集めて整理するなら、それはそのままアーカイブになる。実際そうして前身となるサイトの時から25年分のアーカイブが構築されてきた。例えば、2017年以降、**優生保護法下での手術関連**の頁が増補されている。また2020年度に引き継がれる「COVID-19」関連頁は2020年の3月に感染症の歴史研究を始めている大学院生によって作成が開始されており、各報道機関においても利用されるものとなった。

◇上記した頁関係も含め、活動の多くは実践的なものであり、社会貢献を目指すものであった。2019年にはかつて国立療養所と呼ばれた病院に長く暮らすおもに筋ジストロフィーの人たちの病院内での生活を改善するとともに「地域移行」を支援する全国的な運動にも関わった。大学院生が調査に参加し論文を書いた。HPには「こくりょう(旧国立療養所)を&から」の頁がやはり表紙からリンクされている。研究所は活動の傍にいて、本人の手記、催しの記録、各地の実態等を掲載している。

◇書庫に集められる資料、HPに掲載・増補されるデータ、催しの案内・報告、院生他の著作・論文の告知、等々が389人が参加するメーリングリストで配信されている。2019年度には2604通のメールが配信された。延べ約100万通ということになる。

◇同時に、すべての人がアクセスできるSNSを利用した発信を行っている。ツイッター(https://twitter.com/ritsumei_arsvi)のフォロワーは2604人となっている。フェイスブック(<https://www.facebook.com/ritsumeiarsvi>)のフォロワーは1530人に達した。

◇「現物」はそれとして有し大切に保存しつつ、その「中味」についてはできるだけデジタル・データとしてきた。視覚障害等で紙の本が不便な人も利用できるようにということでもあったが、これからは自動翻訳が実用化された時のためのものでもある。

◇世界中の多くの催しはその場かぎりのものになってしまう。我々の年に1回の東アジア障害学セミナーは記録を残し公開してきた。それにより実際に集まるのは年1回でも、連続性を維持し、蓄積し発展させていくことが可能になる。

◇これらがいずれもCOVID-19のもとでも研究を維持していくことにつながった。本研究所は、この状況下に限らず物理的には人々が遠くに分散している中で有効に研究活動を行なってきたし、そうした活動の範型ともなりえている。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2020年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長	立岩 真也	先端総合学術研究科	教授
研究所副所長	大谷 いづみ	産業社会学部	教授
運営委員	小川 さやか	先端総合学術研究科	教授
	岸 政彦	先端総合学術研究科	教授
	栗原 彬	衣笠総合研究機構	教授
	小泉 義之	先端総合学術研究科	教授
	齋藤 龍一郎	衣笠総合研究機構	客員教授
	桜井 政成	政策科学部	教授
	サトウ タツヤ	総合心理学部	教授
	鎮目 真人	産業社会学部	教授
	千葉 雅也	先端総合学術研究科	准教授
	Andrea De Antoni	国際関係学部	准教授
	Paul Dumouchel	先端総合学術研究科	教授
	富永 京子	産業社会学部	准教授
	長瀬 修	衣笠総合研究機構	教授
	中村 正	応用人間科学研究科	教授
	西 成彦	先端総合学術研究科	教授
	林 達雄	衣笠総合研究機構	研究顧問
	松尾 匡	経済学部	教授
	松原 洋子	先端総合学術研究科	教授
	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授
	村本 邦子	応用人間科学研究科	教授
	望月 茂徳	映像研究科	准教授
	安田 裕子	総合心理学部	准教授
	やまだ ようこ	OIC 総合研究機構	上席研究員
渡辺 克典	衣笠総合研究機構	准教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	福間良明	産業社会学部	教授
内学	① 専門研究員・研究員	北村 健太郎	衣笠総合研究機構 専門研究員

② リサーチアシスタント	吉野 毅	衣笠総合研究機構	専門研究員	
	坂井めぐみ	衣笠総合研究機構	専門研究員	
	芝田 純也	衣笠総合研究機構	専門研究員	
	③ 大学院生	桐原 尚之	先端総合学術研究科	一貫制専上課程8回生
		伊東 香純	先端総合学術研究科	一貫制専上課程5回生
		高 雅郁	先端総合学術研究科	一貫制専上課程5回生
		欧陽 珊珊	先端総合学術研究科	一貫制専上課程2回生
		坂野久美	先端総合学術研究科	一貫制専上課程4回生
		小井戸恵子	先端総合学術研究科	一貫制専上課程4回生
		YOO Jin-kyung	先端総合学術研究科	一貫制専上課程4回生
		中村 雅也	先端総合学術研究科	一貫制専上課程7回生
		高木 美歩	先端総合学術研究科	一貫制専上課程5回生
		増田 洋介	先端総合学術研究科	一貫制専上課程4回生
		植木 是	先端総合学術研究科	一貫制専上課程4回生
		栗川 治	先端総合学術研究科	一貫制専上課程2回生
		岸田 典子	先端総合学術研究科	一貫制専上課程7回生
		駒澤 真由美	先端総合学術研究科	一貫制専上課程5回生
権藤 眞由美		先端総合学術研究科	一貫制専上課程7回生	
酒井 美和	先端総合学術研究科	一貫制専上課程6回生		
北島 加奈子	先端総合学術研究科	一貫制専上課程7回生		
牧野 恵子	先端総合学術研究科	一貫制専上課程3回生		
④ 日本学術振興会特別 研究員 (PD・RPD)				
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研 究生、研修生等)	川端 美季	産業社会学部	授業担当講師	
	飯田奈美子	先端総合学術研究科	授業担当講師	
	密田 逸郎	立命館大学 産業社会学部	非常勤講師	
	酒井春奈	障害学生支援室	支援コーディネーター	
	藤原信行	先端総合学術研究科	授業担当講師	
	青木 慎太郎	大阪国際大学短期大学部 幼児保育学科	非常勤講師	
客員協力研究員	安部 彰	三重県立看護大学看護学部	准教授	
	有馬 斉	横浜市立大学 都市社会文化研究科	准教授	
	有吉 玲子	松島医院	看護師長	
	Anne-Lise Mithout	Université Paris-Diderot	准教授	
	飯野 由里子	東京大学大学院教育学研究科 バリアフリー教育開発研究センター	特任助教	
	一宮 茂子	-	-	
	井上 武史	特定非営利活動法人 メインストリーム協会	スタッフ	

	打浪 文子	淑徳大学短期大学部 こども学科	准教授
	浦田 悠	大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部	特任講師
	太田 啓子	大阪医療センター附属看護学校、阪奈 中央看護専門学校	非常勤講師
	大貫 菜穂	京都造形芸術大学	非常勤講師
	大野 光明	滋賀県立大学 人間文化学部	准教授
	尾上 浩二	DPI 日本会議	副議長
	葛城 貞三	特定非営利活動法人 ALS しがネット	理事長
	加藤 有希子	埼玉大学 基盤教育研究センター	准教授
	角崎 洋平	日本福祉大学 社会福祉学部	准教授
	河口 尚子	名古屋市立大学	非常勤講師
	川口 有美子	(有)ケアサポートモモ	代表取締役
	金 政玉	明石市福祉局生活支援室 障害福祉課共生福祉担当	課長
	郭 貞蘭	-	-
	窪田 好恵	京都看護大学	-
	小西 真理子	大阪大学大学院 文学研究科	講師
	小林 勇人	日本福祉大学 社会福祉学部	准教授
	栄 セツコ	桃山学院大学	教授
	笹谷 絵里	花園大学 社会福祉学部児童福祉学科	専任講師
	篠原 眞紀子	追手門学院大学 学院志研究室	職員
	高橋 涼子	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系	教授
	田邊 健太郎	立命館大学 先端総合学術研究科研究	指導助手
	利光 恵子	女性のための街かど相談室 「ここ・からサロン」	共同代表
	土橋 圭子	-	-
	土肥 いつき	京都府立高校	教員
	仲尾 謙二	-	-
	中尾 麻伊香	長崎大学 原爆後障害医療研究所	助教
	中倉 智徳	千葉商科大学 人間社会学部	専任講師
	永田 貴聖	大阪国際大学	非常勤講師
	永山 博美	独立行政法人 労働者健康安全機構 神戸労災病院	看護師
	新山 智基	神戸国際大学 ブルーリ潰瘍問題支援プロジェクト (Project SCOBU)	幹事
	西沢 いづみ	京都中央看護保健大学校	講師
	能勢 桂介	長野保健医療大学	非常勤講師
	萩原 三義	相生鍼灸	院長

	箱田 徹	天理大学人間学部	准教授
	橋口 昌治	特定非営利活動法人 日本自立生活センター自立支援事業所	職員
	原 昌平	読売新聞大阪本社 編集局	編集委員
	番匠 健一	関西大学	非常勤講師
	樋澤 吉彦	名古屋市立大学大学院 人間文化研究科	准教授
	藤原 良太	NPO 法人 IL&P アシスト 児童指導員	次長
	牧 昌子	京都府国民健康保険審査会	委員
	増田 英明	一般財団法人日本ALS協会	副会長
	松枝 亜希子	-	-
	松波 めぐみ	大阪市立大学	非常勤講師
	松本 理沙	金沢大学 先端科学 イノベーション推進機構	研究員
	村上 潔	神戸市外国語大学	非常勤講師
	山田 裕一	株式会社アインバンド (発達協働センターよりみち)	センター長
	山本 晋輔	株式会社ゆう建築設計事務所	社員
	山本 由美子	大阪府立大学 人間社会システム科学研究科	講師
	梁 陽日	同志社大学	嘱託講師
	横田 陽子	-	-
	吉田 一史美	日本大学生物資源科学部	講師
	頼尊 恒信	NPO 法人 CIL だんない	事務局長
	ワフユディ (小宅) 理沙	同志社女子大学 現代社会学部	助教
	安田 真之	NPO 法人 ゆに	障害者学生支援アドバイザー
	三島 亜紀子	同志社大学	非常勤講師
	高阪 悌雄	静岡英和学院大学 人間社会学部コミュニティ福祉学科	教授
	勝井 久代	ヘルシンキ大学 社会科学部 障害学	准教授
	劉 基勳	ソウル大学病院	研修医
	石岡 亜希子	早稲田大学 自動車・部品産業研究所	招聘研究員
	曾田 夏記	自立生活センターSTEP えどがわ	職員
	天島 大輔	中央大学 文学部	特別研究員 (PD)
	後藤 悠里	福山市立大学 都市経営学部英語	特任講師
	佐藤 暁子	ことのは総合法律事務所	弁護士
	廣野俊輔	大分大学	准教授
その他の学外者	土屋葉	愛知大学	教授
	山下幸子	淑徳大学	教授
研究所・センター構成員 計 128 名 (うち学内の若手研究者 計 22 名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2020年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1.	立岩 真也	往き還り繋ぐ——障害者運動 於&発 福島の50年	共著	2019年9月	生活書院	青木千帆子・瀬山紀子・立岩真也・田中恵美子・土屋 葉	3-10,255-322,363-390,391-396
2.	立岩 真也	弱くある自由へ——自己決定・介護・生死の技術 増補新版	単著	2020年1月	青土社		536p
3.	大谷いづみ	「第13章 安楽死と尊厳死」伏木信次・櫻則章・霜田求編『生命倫理と医療倫理 第4版』	分担執筆	2020年3月	金芳堂		144-153
4.	小川さやか	[単著]チョンキンマンションのボスは知っている——アングラ経済の人類学	単著	2019年7月	春秋社		274p
5.	桜井 政成	Globalizing Welfare: An Evolving Asian-european Dialogue	共著	2019年9月	Edward Elgar Pub	Edited by Stein Kuhnle, Per Selle, Sven E. O. Hort Contributors: J.G. Andersen, H.K. Anheier, R.K.H Chan, L. Chen, R. Ervik, S. Hort, M. Kamikubo, P. Kettunen, N. Kildal, S. Kuhnle, H.-j. Kwon, M. Laperrière, S. Leibfried, T.S. Lindén, Å. Lundqvist, K. Martens, C. Offe, A.S. Orloff, Y. Otsuka, Y. Pan, K. Petersen, Y. Ren, M. Sakurai, U. Schimank, P. Selle, K. Strømsnes, Z. Wang, N. Zakharov	125-141
6.	佐藤 達哉	Money for Ordinary Things—Clean or Dirty? Money:Ordinary Things but Deeply Culturally Embedded Phenomenon. In Giuseppina Marsico and Luca Tateo (Eds.) Ordinary Things and Their Extraordinary Meanings (Annals of Cultural Psychology) ,Chap 8.	共著	2019年6月	Information Age Publishing	Tatsuya Sato, Hideaki Kasuga, and Akinobu Nameda	145—156
7.	佐藤 達哉	ワードマップ 質的研究法 マッピング	共編著	2019年9月	新曜社	サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実	
8.	佐藤 達哉	法と心理学への招待	共著	2019年12月	有斐閣	サトウタツヤ・若林宏輔・指宿信・松本克美・廣井亮一	

9.	佐藤 達哉	心理学・入門〔改訂版〕	共著	2019年12月	有斐閣	渡邊芳之	1-18, 21-46, 91-126, 194-212
10.	佐藤 達哉	Birth of Trajectory Equifinality Approach (TEA) and the Pocket Money Project: Effort to Theorize the Flow of Time. In Takahashi and Yamamoto (Eds.) Children and Money Cultural Developmental Psychology of Pocket Money	単著	2020年3月	Information Age Publishing	Tatsuya Sato	159-170
11.	千葉 雅也	アメリカ紀行	単著	2019年5月	文藝春秋		
12.	千葉 雅也	デッドライン	単著	2019年11月	新潮社		
13.	千葉 雅也	書くための名前のない技術 case3 千葉雅也さん	共著	2020年1月	KDP	Tak.	
14.	千葉 雅也	勉強の哲学 増補版	単著	2020年3月	文春文庫		
15.	DE ANTONI Andrea	Feeling (with) Japan: Affective, Sensory and Material Entanglements in the Field	共編著	2019年	Special Issue of "Asian Anthropology"	Emma Cook	
16.	DE ANTONI Andrea	"Came Back Hounded: A Spectrum of Experiences with Spirits and Inugami Possession in Contemporary Japan." In Rambelli, F. (ed.). Invisible Empire: Spirits and Animism in Contemporary Japan.	単著	2019年	Bloomsbury		109-125
17.	DE ANTONI Andrea	"Call Me a Dog: Feeling (Inugami) Possession in Contemporary Tokushima Prefecture." In Holca, I. and C. Săpunaru Tămaș (eds.). The Forms of the Body in Contemporary Japanese Society, Culture, and Literature (Working Title)	単著	2019年	Lexington Books		Under Review
17.	DE ANTONI Andrea	"Coping with the Spirits of Unsettled Death." In Hendry, J. (ed.). Understanding Japanese Society, Fifth Edition.	単著	2019年	Routledge		
18.	DE ANTONI Andrea	Affect. In Callan, H. (ed.). International Encyclopedia of Anthropology	単著	2019年	John Wiley & Sons		1-8
19.	DE ANTONI Andrea	She Talks to Angels: Spirit Becomings, Embodied Memories, and Affective Imagination Skills in Catholic Exorcism in Contemporary Italy. In Gellner, D.N. and D.P. Martinez (eds.). Sociality, Matter, and the Imagination: Re-Creating Anthropology (working	単著	2019年	Bloomsbury (ASA Publications Series)		Under Review

		title)					
20.	DE ANTONI Andrea	Going to Hell in Contemporary Japan: Feeling Landscapes of the Afterlife, Othering, Memory and Materiality (Working Title)	単著	2020年	London and New York: Routledge (Contract signed)		
21.	富永 京子	共生社会の再構築Ⅱ デモクラシーと境界線の最定位	分担執筆	2019年4月	法律文化社	大賀哲・仁平典宏・山本圭 (編著)	122-139
22.	富永 京子	フィールドから読み解く観光文化学	分担執筆	2019年4月	ミネルヴァ書房	西川克之・岡本亮輔・奈良雅史 (編著)	283-298
23.	富永 京子	みんなの「わがまま」入門	単著	2019年4月	左右社		
24.	長瀬 修	「国連障害者権利委員会の動きと市民社会の役割」日本発達障害者連盟編『発達障害白書 2020年版』	単著	2019年8月	明石書店		158-159
25.	長瀬 修	わかりやすい障害者権利条約—知的障害のある人の権利のために	編著	2019年9月	伏流社		
26.	長瀬 修	“Voices from survivors of forced sterilisations in Japan”, Berghs, M. et al, eds, The Routledge Handbook of Disability Activism	分担執筆	2020年1月	Routledge		182-189
27.	中村 正	社会病理学の足跡と再構成	分担執筆	2019年10月	学文社	日本社会病理学会監修朝田佳尚・田中智仁編	139-167
28.	西 成彦	クレオール想像力——ネグリチュードから群島的思考へ	共著	2020年3月	水声社	立花英裕ほか	363-372
29.	西 成彦	越境する歴史学と世界文学	共著	2020年3月	臨川書店	坪井秀人ほか	121-135
30.	西 成彦	西洋人の神道観／日本人のアイデンティティーを求めて	共著	2020年3月	勉誠出版	平川祐弘	494-500
31.	松尾 匡	「反緊縮！」宣言	共著	2019年5月	亜紀書房	池田 香代子 井上 智洋 梶谷 懐 岸 政彦 西郷 南海子 朴 勝俊 宮崎 哲弥 森 永 卓郎 ヤニス・バルファキス	
32.	松尾 匡	左派・リベラル派が勝つための経済政策作戦会議	共著	2019年6月	青灯社	ひとびとの経済政策研究会	
33.	松尾 匡	財政再建とマクロ経済 -- 経済再生と生活保障に政府はどのように関与すべきか 財政研究第15巻	共著	2019年10月	有斐閣		18-23,29-48
34.	松原 洋子	「解説」松原洋子編『優生保護法関係資料集成』第1巻	単著	2019年12月	六花出版		1-4
35.	松原 洋子	松原洋子編『優生保護法関係資料集成』第1巻～第3巻	その他	2019年12月	六花出版		
36.	松原 洋子	「優生保護法の歴史と現在」花園大学人権教育研究センター編『「私」から始める支援の実践』	単著	2020年3月	批評社		73-89
37.	安田 裕子	本書が拓く新しい視角—保育実践研究がもたらすTEAの新展開 (中坪史典 (編), 複線径路・等至性	単独	2019年7月	特定非営利活動法人 ratik	安田裕子	428-431

		アプローチ (TEA) が拓く保育実践のリアリティ)					
38.	安田 裕子	TEA (複線経路等至性アプローチ) (サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実 (編), ワードマップ 質的研究法マッピング)	単独	2019年9月	新曜社	安田裕子	16-22
39.	渡辺 克典	障害社会学という視座——社会モデルから社会学的反省へ	共著	2019年9月	新曜社	榊原賢二郎編著、吉村さやか、浦野茂、榎田美雄、染谷莉奈子、石島健太郎	
40.	渡辺 克典	知と実践のプリコラージュ：生存をめぐる研究の現場	共著	2020年3月	晃洋書房	櫻井悟史共編他	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1.	立岩 真也	「おもしろくなくても書く——何がおもしろうて読むか書くか 第8回」	単著	2019年4月	『ちいさい・おおきい・よわい・つよい』(123巻)	立岩真也		
2.	立岩 真也	「ここにもっとなにかがあり、さらにあるはずについて」	単著	2019年4月	窪田好恵『くらしのなかの看護——重い障害のある人に寄り添い続ける』	立岩真也		
3.	立岩 真也	病・障害から社会を描く——『不如意の身体』『病者障害者の戦後』青土社) 刊行を機に (対談：立岩真也×天田城介)	単著	2019年4月	『週刊読書人』3285:1-2 http://www.dokushojin.co.jp/?pid=142167007	立岩真也		
4.	立岩 真也	解説：追悼・筋ジストロフィー病棟を出て暮らす——古込和宏さんのこと	単著	2019年6月	『季刊福祉労働』(163巻)	立岩真也	128-129	
5.	立岩 真也	やまゆり園事件から3年「生きる価値」の大切さ問う	単著	2019年7月	『朝日新聞』2019-07-20朝刊	立岩真也		
6.	立岩 真也	「痛いのは困る」から問う障害と社会	共同	2019年7月	『現代思想』(47巻9号)	立岩真也・熊谷晋一郎	221-229	
7.	立岩 真也	「解説 この時代を生きてきた一人ひとりのことを書いて残す」	単著	2019年7月	栗川治『愛とユーモアの保育園長——栗川清美 その実践と精神』	立岩真也		
8.	立岩 真也	「遺したものを記録する——何がおもしろうて読むか書くか 第9回」	単著	2019年7月	『ちいさい・おおきい・よわい・つよい』(124巻)	立岩真也		
9.	立岩 真也	「高橋修・上&話を残すこと——『弱くある自由へ』第二版に・1」	単著	2019年8月	『現代思想』(47巻10号)	立岩真也	222-237	
10.	立岩 真也	はじめに・いきさつ	共著	2019年9月	『往き還り繋ぐ——障害者運動於&発福島の50年』, 生活書院	青木千帆子・瀬山紀子・立岩真也・田中恵美子・土屋葉	3-10	
11.	立岩 真也	分かれた道を引き返し進む	共著	2019年9月	『往き還り繋ぐ——障害者運動於&発福島の50年』, 生活書院	青木千帆子・瀬山紀子・立岩真也・田中恵美子・土屋	255-322	

						葉		
12.	立岩真也	遠くから	共著	2019年9月	『往き還り繋ぐ—障害者運動於&発福島の50年』, 生活書院	青木千帆子・瀬山紀子・立岩真也・田中恵美子・土屋葉	363-390	
13.	立岩真也	もう一度、記すことについて	共著	2019年9月	『往き還り繋ぐ—障害者運動於&発福島の50年』, 生活書院	青木千帆子・瀬山紀子・立岩真也・田中恵美子・土屋葉	391-396	
14.	立岩真也	「高橋修・中—『弱くある自由へ』第二版に・2」	単著	2019年9月	『現代思想』(47巻12号)	立岩真也	206-221	
15.	立岩真也	記録をつなげる広げる—何がおもしろうて読むか書くか 第10回	単著	2019年10月	『ちいさい・おおきい・よわい・つよい』125	立岩真也		
16.	立岩真也	「高橋修・下—『弱くある自由へ』第二版に・3」	単著	2019年10月	『現代思想』(47巻13号)	立岩真也	215-231	
17.	立岩真也	くわしく書くことがどんなにか大切であること	単著	2019年12月	萩原浩史『詳論 相談支援—その基本構造と形成過程・精神障害を中心』, 生活書院	立岩真也	297-307	
18.	立岩真也	「なぜ書いたか、なぜ新版か—『弱くある自由へ』第二版に・結」	単著	2020年1月	『現代思想』47-13(2019-10)	立岩真也	215-231	
19.	立岩真也	「身体×社会アーカイブ—何がおもしろうて読むか書くか 第11回」	単著	2020年1月	『ちいさい・おおきい・よわい・つよい』126	立岩真也		
20.	立岩真也	「身体×社会アーカイブの構築—『弱くある自由へ』第二版に・補章」	単著	2019年12月	『現代思想』(47巻)	立岩真也		
21.	小川さやか	[インタビュー記事]その日暮らしが幸福?	その他	2019年7月	日経 ARIA	濱野ちひろ	https://aria.nikkei.com/atcl/column/19/070900113/070900002/	
22.	小川さやか	【書評】石井美保著『めぐりながれるもの人類学』	単著	2019年8月	週刊読書人(2019年8月29日号)			
23.	小川さやか	[インタビュー記事]タンザニアの突発的「生計多様化戦略」	その他	2019年8月	日経 ARIA	濱野ちひろ	https://aria.nikkei.com/atcl/column/19/070900113/080800003/?i_cid=nbparia_sied_pkl_cback	
24.	小川さやか	【査読論文】SNSで繋がれる集会的なオートエスノグラフィー—香港のタンザニア人を事例として—	単著	2019年9月	文化人類学(84巻2号)		172-190	
25.	小川さやか	[インタビュー記事]敗者復活しやすい香港のタンザニア社会 他動力が大事	その他	2019年9月	日経 ARIA	濱野ちひろ	https://aria.nikkei.com/atcl/column/19/070900113/091100005/?i_cid=nbparia_sied_pkl_cback	
26.	小川さやか	【小論】気づかないふりで回す信頼と友情	単著	2019年10月	群像(74巻11号)		314-315	
27.	小川さやか	[インタビュー記事]評価経済とは一線を画す タンザニア人の TRUST とは	その他	2019年10月	日経 ARIA	濱野ちひろ	https://aria.nikkei.com/atcl/column/19/070900113/100900006/?i_cid=nbparia_sied_pkl_cback	
28.	小川さやか	“きっと誰かが助けてくれる” 香港のアングラ経	単著	2019年10月	Ys Salon Report(1巻)			

		済が示す、シェアリング 経済のもう一つの未来						
29.	小川 さやか	【新聞社説】1000字で わかるインフォーマル経 済—不確実な環境下での 生き方	単著	2019年11月	読売新聞(2019年11 月18日)(2019年11 月18日巻)			
30.	小川 さやか	【新聞社説】1000字で わかるインフォーマル経 済—地域の便宜に基づく 判断	単著	2019年11月	読売新聞(2019年11 月25日)(2019年11 月25日巻)			
31.	小川 さやか	そして人類学が残る—グ ローバル、AI時代のなか で(特集 文化人類学 再考—グローバル化と 多文化共生社会のはざま で)	共著	2019年11月	神奈川大学評論(94号)	中沢新 一、松村 圭一郎	6-33	
32.	小川 さやか	[インタビュー記事]タン ザニア人の知恵「不安 定」には可能性が含まれ ている	その他	2019年11月	日経ARIA	濱野ちひ ろ	https://aria.nikkei.com/atcl/ column/19/070900113/1114 00007?i_cid=nbparia_sied_ pkl_cback	
33.	小川 さやか	【小論】世界が存在する 偶然を(特集100年後の 日本)	単著	2019年12月	アステイオン(サント リー文化財団)(91巻)		215-217	
34.	小川 さやか	[小論]タンザニアの青少 年たちの生き方から学ぶ 「現在」をたくましく生 きぬくためのヒント	単著	2019年12月	TOSHIN TIMES 大 学学部研究会(2020年 増刊号巻)		156-157	
35.	小川 さやか	[書評]梶谷懐・高口康太 著『幸福な監視国家中 国』	単著	2019年12月	ブックファースト新宿 店開店11周年記念 『名著百選』2019		12	
36.	小川 さやか	[インタビュー記事]幸福 な「その日暮らし」と は?未来の不安はみな同 じ	その他	2019年12月	日経ARIA	濱野ちひ ろ	https://aria.nikkei.com/atcl/ column/19/070900113/1209 00008?i_cid=nbparia_sied_ pkl_cback	
37.	小川 さやか	[新聞社説]1000字でわか るインフォーマル経済— グローバル経済のゆがみ と連動	単著	2019年12月	読売新聞(2019年12 月16日)(2019年12 月16日巻)			
38.	小川 さやか	[新聞社説]1000字でわか るインフォーマル経済— ICTが開く次世代の「シ ェア」	単著	2019年12月	読売新聞		2019年12月23日	
39.	小川 さやか	書評『マツタケ』資本主 義の周縁を生きぬく術	単著	2020年3月	日経新聞(2020年3月 5日号)			
40.	小川 さやか	The Logic of “Open Reciprocity” in the Tanzanian Union in Hong Kong and China	単著	2020年3月	JRCA(Japanese Review of Cultural Anthropology)(20巻1 号)	Sayaka Ogawa	(印刷中)	
41.	小川 さやか	都市のアンダーキーを流用 する—タンザニアと香港 の街角から	単著	2020年3月	都市美(2号)		65-77	
42.	小川 さやか	(書評)「吉岡乾著『現 地嫌いなフィールド言語 学者、かく語りき』」	単著	2020年3月	日経新聞 2020年3月 12日夕刊		2020年3月12日	
43.	小川 さやか	(書評)山田奨治著『< 海賊版の思想>』永久コ ピーライトを巡る争い	単著	2020年3月	日経新聞(2020年3月 26日号)			
44.	桜井 政成	豪雨災害におけるボラン ティアの動向—発災から のトレンド分析から—	単著	2019年4月	環境技術(48巻4号)	桜井政成	190-194	
45.	桜井 政成	オリンピック開催がスポ ーツボランティア全般に 与える影響—レバレッジ 概念を用いた東京五輪の レガシー測定—	単著	2019年7月	日本NPO学会 ディ スカッション・ペーパ ー(2019-001-J巻)	桜井政成		

46.	桜井政成	サービスラーニングによる地域課題解決への貢献	単著	2019年9月	調査研究情報誌ECP R(43巻1号)	桜井政成	32-37	
47.	桜井政成	Why did the new NPO corporations diffuse? Reason for the increasing social economy organizations in Japan	単著	2019年11月	7th EMES Selected Conference Papers(ESCP-7EMES-15巻)	Masanari Sakurai		
48.	桜井政成	日本の社会学におけるNPO・ボランティア研究動向	単著	2019年12月	ノンプロフィット・レビュー(19巻1,2号)	桜井政成	13-22	
49.	桜井政成	東京五輪開催に向けての教育現場でのレガシーに関する批判的検討～大学におけるボランティア活動を例に～	単著	2020年3月	政策科学(27巻3号)	桜井政成	145-158	
50.	桜井政成	兵庫県豊岡市城崎温泉における観光まちづくり取り組みに関する調査結果—地域コミュニティ課題との関連、サステイナブルツーリズムへの視座	単著	2020年3月	地域情報研究：立命館大学地域情報研究所紀要(9巻)	桜井政成	94-106	
51.	佐藤達哉	転機研究における「個人と社会との相互作用」のアプローチ	共著	2019年4月	キャリア教育研究(37巻2号)	土元 哲平, サトウ タツヤ	35-44	
52.	佐藤達哉	[心理学史 諸国探訪] イタリア	単著	2019年4月	心理学ワールド(85号)	サトウタツヤ	29	
53.	佐藤達哉	福島、ふくしま、Fukushima (5) 対人援助学&心理学の縦横無尽 (26)	単著	2019年6月	対人援助学マガジン(36号)	サトウタツヤ	86-96	
54.	佐藤達哉	[心理学史 諸国探訪] タイ	単著	2019年7月	心理学ワールド(86号)	サトウタツヤ	29	
55.	佐藤達哉	[心理学史 諸国探訪] インドネシア	単著	2019年11月	心理学ワールド(87号)	サトウタツヤ	29	
56.	佐藤達哉	質的アプローチに対するのは量的アプローチではなく、統計量アプローチではないか？ 対人援助学&心理学の縦横無尽 (27)	単著	2019年12月	対人援助学マガジン(39号)	サトウタツヤ	80-87	
57.	佐藤達哉	心理学史におけるナラティブの役割	単著	2020年1月	N：ナラティブとケア(11巻)	サトウタツヤ	11-21	
58.	佐藤達哉	[心理学史 諸国探訪] デンマーク	単著	2020年2月	心理学ワールド(88号)	サトウタツヤ	29	
59.	佐藤達哉	成長の瞬間を生み出す「よいキャリア支援」の意味感覚：TAE ステップを用いた理論構築	共著	2020年3月	質的心理学研究(19巻)	土元哲平・小田友理恵・サトウタツヤ	46-67	
60.	佐藤達哉	「利他の心」に基づく社会の実現に向けて 稲盛経営哲学は何をもたらすのか？：フィロソフィの共有・浸透における抵抗勢力の役割	共著	2020年3月	立命館大学稲盛経営哲学研究センター研究成果報告集2015年度—2019年度(1巻)	山浦一保・サトウタツヤ・河野達仁・河井亨	14-17	
61.	佐藤達哉	「ものづくり」に質的研究はどう貢献できるか？—ものづくり質的研究の構想について	共著	2020年3月	立命館人間科学研究(41巻)	隅本雅友・安田裕子・斎藤進也・神崎真実・菅井育子・サトウタツ	29-37	

						ヤ		
62.	佐藤達哉	東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態—2017年第2回双葉郡住民実態調査—	共著	2020年3月	東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編(36号)	丹波 史紀, 佐藤慶一, サトウ タツヤ, 清水晶紀, 関谷 直也, 廣井 悠, 除本 理史, 安本 真也		
63.	佐藤達哉	盛和塾企業における稲盛経営哲学の浸透	共著	2020年3月	立命館大学稲盛経営哲学研究センター研究成果報告集 2015年度—2019年度(1巻)	サトウ タツヤ・澤野美智子	24-27	
64.	佐藤達哉	Situational Experience around the World: A Replication and Extension in 62 Countries	共著	2020年	Journal of Personality	Daniel I. Lee, Gwendolyn Gardiner, Erica Baranski, Erica Baranski, Members of the International Situations Project and Funder, D.C.		
65.	千葉雅也	[対談] 〈実在〉の時代の思想と病理	共著	2019年5月	現代思想(47巻694号)	千葉 雅也, 松本卓也	8-21	
66.	千葉雅也	[討議] 加速主義の政治的可能性と哲学的射程	共著	2019年6月	現代思想(47巻8号)	千葉 雅也, 河南瑠莉, セバスチャンプロイ, 仲山ひふみ	8-23	
67.	千葉雅也	[インタビュー] 虚／実の交錯—相対主義への内在	単著	2019年7月	談(115号)	千葉 雅也	9-16, 19-34	
68.	千葉雅也	デッドライン	単著	2019年9月	新潮(116巻9号)	千葉 雅也	7-77	
69.	千葉雅也	文学が契約書になり、契約書が文学になる	単著	2019年9月	文学界(73巻9号)	千葉 雅也	44-48	
70.	千葉雅也	戦後日本のかつこかわいさを讀んで—ジャニ系と時代	単著	2019年11月	ユリイカ(51巻18号)	千葉 雅也	19-24	
71.	千葉雅也	雑書(ざつがき) ノートの頃	単著	2020年2月	中央公論(134巻2号)	千葉 雅也	116-120	
72.	千葉雅也	[討議] 学問と文学の間で	共著	2020年3月	新潮(117巻3号)	千葉 雅也, 岸政彦, 西成彦	169-180	
73.	DE ANTONI Andrea	Down in a Hole: Dark tourism, Haunted Places as Affective Meshworks, and the	単著	2019年	Japan Review(33巻)		271-297	

		Obliteration of Korean Labourers in Contemporary Kyoto.						
74.	DE ANTONI Andrea	Feeling (with) Japan: Affective, Sensory and Material Entanglements in the Field - Introduction	共著	2019年	Asian Anthropology(18巻3号)	with Emma Cook	139-153	
75.	富永京子	A New Liberal Class in Japan: Based on Latent Class Analysis	共著	2019年9月	Economic and Social Changes: Facts, Trends, Forecast,(12巻5号)	Tsutomu Hashimoto, Yusuke Kanazawa and Kyoko Tominaga	192-210	
76.	富永京子	メタゲームとしての雑誌投稿—デジタルゲーム雑誌『週刊ファミ通』投稿コーナーを事例として—	単著	2019年11月	ソシオロゴス(43巻)	富永京子	37-51	
77.	富永京子	「社会運動する若者」はどのように存在しうのか?—消費社会に「対抗」し、「やり過ごし」、「利用する」主体の運動—	単著	2020年3月	社会文化研究(22巻)	富永京子	29-42	
78.	長瀬修	2020年日本初回審査に向けて—市民社会と障害者組織の役割: パラレルレポート、ブリーフィング、ロビーイング	単著	2019年6月	福祉労働(163号)		25-39	
79.	長瀬修	続・殺害された<国際障害者年の父>—マンズール・ラシッド・キヒア: 残された家族と帰還	単著	2019年9月	福祉労働(164号)		86-87	
80.	長瀬修	書評「堤英俊著 知的障害教育の場とグレーゾーンの子供たち—インクルーシブ社会への教育学」	単著	2019年10月	社会福祉研究(136号)		111	
81.	長瀬修	障害学国際セミナー2019—「全員のためのインクルーシブな社会」(武漢)	単著	2020年3月	福祉労働(166号)	長瀬修	104-105	
82.	中村正	臨床社会学の方法(25) 情状を問うことの意味—ナラティブと動機の語彙—	単著	2019年6月	対人援助学マガジン(10巻1号)	中村正	21-29	
83.	中村正	性暴力加害者をなくすための「教育」からみた支援	単著	2019年7月	日本性科学会雑誌(37巻1号)	中村正	13-23	
84.	中村正	臨床社会学の方法(26) 認知的不正義—加害者更生のために—	単著	2019年9月	対人援助学マガジン(10巻2号)	中村正	22-33	
85.	中村正	ハラスメント加害者の更生はいかにして可能か—加害者への臨床心理社会的な実践をもとにして考える—	単著	2019年11月	日本労働研究雑誌(労働政策研究・研修機構)(712号)	中村正	86-97	
86.	中村正	臨床社会学の方法 (27) 家族問題と治療的司法	単著	2019年12月	対人援助学マガジン (対人援助学会) (10巻3号)	中村正	20-27	
87.	中村正	臨床社会学の方法 (28) 男性同士の関係性—男どうしの親密さと脱暴力—	単著	2020年3月	対人援助学マガジン (対人援助学会) (10巻4号)	中村正	21-29	

88.	西成彦	戦後日本でだれが(異邦人)だったのか?	単著	2019年7月	植民地文化研究(18巻)	西成彦		
89.	西成彦	「言語圏」で世界を見る	単著	2019年9月	人間会議(2019巻夏号)	西成彦	72-77	
90.	西成彦	多言語都市・上海を思う 『日録』2018年6月～7月より)	単著	2020年3月	立命館言語文化研究(31巻4号)	西成彦		
91.	松尾匡	反緊縮三派の議論の整理 (特集 現代貨幣理論(MMT))	単著	2019年11月	景気とサイクル(68号)	松尾匡	14-25	
92.	松尾匡	少子高齢化時代にIRが 奪う労働の推計—大阪府経済の場合—	単著	2020年3月	立命館経済学(68巻5・6号)	松尾匡	225-237	
93.	松原洋子	「優生学と生命倫理」	単著	2019年7月	『響き合う街で』(89号)		22-25	
94.	美馬達哉	「マイノリティ・アーカイブズの言挙げ」	単著	2019年10月	立命館生存学研究(3巻)	美馬達哉	3-5	
95.	美馬達哉	Transcranial Direct Current Stimulation Improves Pusher Phenomenon.	共著	2019年	Case Rep Neurol(11号)	Yamaguchi T, *Satow T, Komuro T, Mima T.	61-65	
96.	美馬達哉	「研究不正からみえる科学の現代」	単著	2019年	地盤工学会誌(67巻6号)	美馬達哉	54-9	
97.	美馬達哉	Gait-synchronized rhythmic brain stimulation improves post-stroke gait disturbance: a pilot study.	共著	2019年	Stroke(50巻11号)	*Kogane maru S, Kitatani R, Fukushima-Maeda A, Mikami Y, Okita Y, Matsuhashi M, Ohata K, Kansaku K, Mima T.		
98.	美馬達哉	「Locked-in state (LIS)・Minimally conscious state (MCS)・Vegetative state (VS)に関する最近の知見」	単著	2020年1月	脳神経内科	美馬達哉		
99.	美馬達哉	「tSMS(transcranial static magnetic stimulation)」	共著	2020年1月	Clinical Neuroscience(38巻1号)	柴田純也、美馬達哉	36-38	
100.	美馬達哉	Effects of bilateral anodal transcranial direct current stimulation over the tongue primary motor cortex on cortical excitability of the tongue and tongue motor functions	共著	2020年	Brain Stimul(13巻1号)	*Maezawa H, Vicario CM, Kuo MF, Hirata M, Mima T, Nitsche MA		
101.	美馬達哉	Transcranial Direct Current Stimulation for a Patient with Locked-in Syndrome.	共著	2020年	Brain Stimul(2020巻)	*Satow T, Komuro T, Yamaguc	375-7	

						hi T, Tanabe N, Mima T		
102.	美馬 達哉	Gait-synchronized oscillatory brain stimulation modulates common neural drives to ankle muscles in patients after stroke: a pilot study.	共著	2020年	Neurosci Res.	*Kitatani R, Koganemaru S, Maeda A, Mikami Y, Matsushita M, Mima T, Yamada S.		
103.	美馬 達哉	Cerebellar transcranial alternating current stimulation modulates human gait rhythm.	共著	2020年	Neurosci Res.	*Kogane maru S, Mikami Y, Matsushita M, Truong DQ, Bikson M, Kansaku K, Mima T.		
104.	美馬 達哉	Intraoperative electrophysiological mapping of medial frontal motor areas and functional outcomes.	共著	2020年	World Neurosurgery	Shibata S, Yamao Y, Kunieda T, Inano R, Nakae T, Nishida S, Inada T, Takahashi Y, Kikuchi T, Arakawa Y, Yoshida K, Matsumoto R, Ikeda A, Mima T, *Miyamoto S.		
105.	美馬 達哉	The effects of transcranial static magnetic fields stimulation over the supplementary motor area on anticipatory postural adjustments.	共著	2020年	Neuroscience Letters	Tsuru D, Watanabe T, Chen X, Kubo N, Sunagawa T, Mima T, *Kirimoto H.		
106.	美馬 達哉	Effect of transcranial static magnetic	共著	2020年	Neuroscience Letters	Shibata S,		

		stimulation on intracortical excitability in the contralateral primary motor cortex.				Watanabe T, Yukawa Y, Minakuchi M, Shimomura R, *Mima T.		
107.	美馬達哉	Smaller muscle mass is associated with increase in EMG-EMG coherence of the leg muscle during unipedal stance in elderly adults.	共著	2020年	Human Movement Science(71巻)	Nojima I, Suwa Y, Sugiura H, Noguchi T, Tanabe S, Mima T, Watanabe T		
108.	美馬達哉	Comparison of Phase Synchronization Measures for Identifying Stimulus-Induced Functional Connectivity in Human Magnetoencephalographic and Simulated Data.	共著	2020年	Frontiers in Neuroscience	Yohisnaga, K., Matsuhashi, M., Mima, T., Fukuyama, H., Takahashi, R., *Hanakawa, T. Ikeda, A.		
109.	村本邦子	周辺からの記憶 23 : 2015年12月シンポジウム 東日本家族応援プロジェクト5年を振り返る	単著	2019年6月	対人援助学マガジン(10巻1号)	村本邦子	142-164	
110.	村本邦子	周辺からの記憶 24: 2016年むつ・多賀城・宮古	単著	2019年9月	対人援助学マガジン(10巻2号)	村本邦子	136-155	
111.	村本邦子	周辺からの記憶 25: 2016年度 福島・シンポジウム	単著	2019年12月	対人援助学マガジン(10巻3号)	村本邦子	128-138	
112.	村本邦子	物語のはじまりとしての『風の歌を聴け』—「僕」は何に病んで自己療養に向かうのか	単著	2020年2月	MURAKAMI REVIEW(1巻)	村本邦子	1-16	
113.	村本邦子	周辺からの記憶 26 : 2017年度 福島・むつ・多賀城・岩手	単著	2020年3月	対人援助学マガジン(10巻4号)	村本邦子	146-156	
114.	安田裕子	司法面接と心身のケアの連携を促進する研修プログラムの開発	共著	2019年12月	子どもの虐待とネグレクト(21巻3号)	田中晶子・安田裕子・上宮愛	365-368	
115.	安田裕子	法と心理学会第19回大会 ワークショップ 虐待を受けた子どもへの包括的支援を考える—「捜査とケア」二者択一から両立へ	共著	2019年12月	法と心理(19巻1号)	田中晶子・安田裕子・上宮愛・片岡笑美子・鈴木聡・西部智子・仲真紀子	47-53	
116.	安田裕子	「ものづくり」に質的研究はどう貢献できるか?—ものづくり質的研究の構想について	共著	2020年3月	立命館人間科学研究(41号)	隅本雅友・安田裕子・斎藤進也・	29-37	

						神崎真実・菅井育子・サトウタツヤ		
117.	安田裕子	Career Development during the School-to-Work Transition among the Students of Middle-Ranked Universities in Japan	共著	2020年	Journal of Asian Vocational Education and Training(12号)	Banda, K., Sato, T., Yasuda, Y., Toyoda, Y., & Sugimori, S.	in press	

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1.	立岩 真也	保育園と私——当日はこの話はいしません ★紋切型を疑うことから始まる	2019年5月	日本保育学会第72回大会、 於：大妻女子大学	
2.	立岩 真也	石川准さんの紹介	2019年5月	立命館大学土曜講座、立命館大学衣笠キャンパス	
3.	立岩 真也	これから	2019年6月	筋ジスの自立生活とは？——筋ジス病棟から自立生活へ、主催：メインストリーム協会、於：西宮市	
4.	立岩 真也	「治すことを願って」6、7歳で入った	2019年6月	筋ジストロフィーの人が50年以上病院で暮らしてきた理由（前編）（岩永直子取材） 『BuzzFeed News』2019-06-08	
5.	立岩 真也	岩永直子「『善意の集合体』が維持してきた仕組みを壊す	2019年6月	筋ジストロフィーの人が50年以上病院で暮らしてきた理由（後編）（岩永直子取材）	
6.	立岩 真也	病者障害者の戦後	2019年6月	筋ジスの自立生活とは？——筋ジス病棟から自立生活へ	
7.	立岩 真也	生政治史点描——戦後・国立療養所とその周辺	2019年6月	福祉学会第17回大会	
8.	立岩 真也	動かなかったものを動かす	2019年6月	第28回全国自立生活センター協議会協議員総会・全国セミナー	
9.	立岩 真也	ベーシックインカムについて	2019年8月	生活保障プロジェクト	
10.	立岩 真也	国家に抗する社会を再構築する手立て	2019年8月	学園坂スタジオ・思想ゼミナール 連続対談「政治・身体・自己——問いの移動」	宇野邦一
11.	立岩 真也	重訪、なにそれ？	2019年8月	重度訪問介護従業者養成研修、於：京都アスニー	
12.	立岩 真也	そろそろと始めていること・2	2019年9月	行き還り繋ぐ——福島障害者運動史本刊行も機してアーカイヴィング公開シンポジウム第2回、於：立命館大学朱雀キャンパス	
13.	立岩 真也	行き還り繋ぐ——福島障害者運動史本刊行も機してアーカイヴィング公開シンポジウム第2回	2019年9月	行き還り繋ぐ——福島障害者運動史本刊行も機してアーカイヴィング公開シンポジウム第2回	廣野俊輔・青木千帆子・瀬山紀子・田中恵美子
14.	立岩 真也	会長挨拶	2019年9月	障害学会大会、於：立命館大学朱雀キャンパス	
15.	立岩 真也	コメント3	2019年9月	有馬斉著『死ぬ権利はあるか——安楽死、尊厳死、自殺幫助の是非と命の価値』合評会	
16.	立岩 真也	There may be Asian and Universal Perspective(s)	2019年10月	Whether There Is an East Asia Perspective(s) on Disability and Inclusion, if so, what are the characteristics, 障害学国際セミナー	

				2019, 於: 中国・武漢市	
17.	立岩 真也	ソーシャルワーク、をする	2019年11月	第10回四国地区社会福祉士合同研修会/ソーシャルワークフォーラムとくしま2019	
18.	立岩 真也	往き還り繋ぐ	2019年11月	大学院ウィーク企画	
19.	立岩 真也	高木美歩さんです	2019年11月	ライスボールセミナー, 於: 立命館大学衣笠キャンパス・創思館1階	
20.	立岩 真也	どこに立ち何を言い何をなすか	2019年11月	筋ジス病棟の未来を考えるプロジェクト始動, 第8回D P I 障害者政策討論集会分科会 於: 戸山サンライズ	
21.	立岩 真也	身体×社会アーカイブの構築——『弱くある自由へ』第二版に・補章	2019年12月	『現代思想』47-15(2019-12):209-221	
22.	立岩 真也	山本太郎答弁冒頭/立岩真也前座挨拶	2019年12月	於: 立命館大学衣笠キャンパス・創思館3階	
23.	立岩 真也	安楽死尊厳死の倫理	2019年12月	日本生命倫理学会大会, 於: 東北大学	
24.	立岩 真也	今般どこから何を話すのがよいだろう	2019年12月	日本ベーシックインカム学会第2回年次大会, 於: 立命館大学朱雀キャンパス	
25.	立岩 真也	御挨拶	2019年12月	シンポジウム「安楽死・尊厳死問題を考える——公立福生病院事件と反延命主義」, 於: 東京大学駒場キャンパス	
26.	立岩 真也	宍戸監督に聞く(対談: 宍戸大裕・立岩真也)	2019年12月	「地域で暮らす」を知る、考える、広げる 重度知的障害と呼ばれる人たちと仲間の実践から, 於: 立命館大学朱雀キャンパス	
27.	立岩 真也	実際には余っておりその処理に苦労している	2020年2月	LITALICO 研究所 OPEN LAB, 第8回「生きる」を誰が決めるのか? 生命倫理と医療・経済, 於: 東京・中目黒	
28.	立岩 真也	重訪、なににそれ?	2020年2月	重度訪問介護従業者養成研修, 10:00~12:00, 於: 京都市・ひとまち交流館	
29.	立岩 真也	2019年度をかいつまんで	2020年2月	総長ヒアリング, 於: 立命館大学朱雀キャンパス	
30.	立岩 真也	この不思議な催しに	2020年2月	ハングル、韓日現代アート、70年代と現在, 於: 京都・木屋町 Urbanguild	
31.	大谷いづみ	「優生保護法と安楽死・尊厳死運動史」	2019年8月	「第2回生命倫理政策史研究会——優生保護法史の多角的検討」	
32.	大谷いづみ	「ハンドル形電動車いすの移動アクセシビリティ——英米仏独伊韓の実態調査」	2019年9月	障害学会第16回京都大会	川端美季
33.	大谷いづみ	「障害と安楽死・尊厳死言説——高齢化社会における「死ぬ権利」と「死ぬ義務」	2019年10月	第9回障害学国際セミナー 2019	
34.	小川 さやか	投機的な相互支援を組織する—香港・中国南部の東アフリカ系住民による組合活動を事例に	2019年6月	日本文化人類学会第53回研究大会	
35.	小川 さやか	香港在住のタンザニア人によるプラットフォーム型市民社会とシェアリング経済	2019年6月	立命館西園寺塾	
36.	小川 さやか	環太平洋地域とアフリカ諸国をつなぐシェアの思想	2019年6月	立命館大学土曜講座	
37.	小川 さやか	Ys Salon「香港のアンダーグラウンド経済から考えるテクノロジーとともにある未来」	2019年7月	立命館大学 Ys Salon	(後 中谷善雄・松原洋子と鼎談)
38.	小川 さやか	【イベント】小川さやか&小松理度「よそ者」から学ぶ	2019年7月	ハフポスト日本版	

39.	小川 さやか	【トークイベント】『チョンキンマンションのボスは知っている』出版記念	2019年8月	池袋ジュンク堂	
40.	小川 さやか	【トークイベント】風通しの良い社会と経済の話をしよう	2019年9月	下北沢B&B	家入一真
41.	小川 さやか	【トークイベント】これからの時代をどう生きるかー宗教×労働×その日暮らし	2019年10月	サントリー文化財団の設立40周年記念事業	大竹文雄・稲場圭信氏・大内伸哉氏
42.	小川 さやか	【連続講座】「第三回 食と言説」「趣旨説明」	2019年10月	連続講座 食と政治ー胃袋から支配する	
43.	小川 さやか	【イベント】無条件であることの条件を追求するータンザニア人の商売とその日暮らしを事例に	2019年11月	SSI サロン「アフリカ 未来社会」	栗本英世・木多道弘
44.	小川 さやか	【招待講演】「その日暮らし」の経済から考える私たちの社会ー香港の地下経済と日本の未来ー	2019年12月	開発教育セミナー	
45.	小川 さやか	【ラジオ】『LOHAS TALK』ゲスト	2019年12月	J-WAVE 局	
46.	小川 さやか	【特別講師】窮地におけるシェアの実践とセルフ観ータンザニア人商人の事例から	2020年1月	社会連携セミナー	
47.	小川 さやか	【フリートーク】「フィリピン人と家族になって現在」	2020年1月	現代エスノグラフィー研究会	中島弘象・永田貴聖
48.	小川 さやか	総合司会とコメント	2020年2月	ワークショップ「AI時代の労働とヒューマニティを考える」	稲葉振一郎・久保明教 (司会・コメント 梶谷懐)
49.	小川 さやか	学問の評価とは？	2020年3月	全分野結集型シンポジウム	
50.	桜井 政成	オリンピックボランティアの参加構造およびレガシーに関する基礎的研究ー高等教育現場への影響ー	2019年6月	日本NPO学会21回年次大会	桜井政成・山田一隆
51.	桜井 政成	Are disaster volunteers insufficient? An analysis of the volunteer coordination cases of flood disaster affected areas in Japan	2019年7月	ISTR Asia - Pacific Regional Conference	Masanari Sakurai
52.	桜井 政成	Why did the new NPO corporations diffuse? Reason for the increasing social economy organizations in Japan	2019年7月	7th EMES International Research Conference on Social Enterprise	Masanari Sakurai
53.	桜井 政成	Comments for Petersen presentation	2019年10月	Open Research “Globalizing Welfare: An Evolving Asian-European Dialogue”	Masanari Sakurai
54.	桜井 政成	サービスラーニングが地域にもたらす効果：文献レビューによるモデル化	2019年11月	日本福祉教育・ボランティア学習学会第25回大会	桜井政成
55.	佐藤 達哉	唾液指標を用いた妊娠期女性のストレス状態についての検討	2019年5月	日本生理心理学会大会	肥後克己, 岡本尚子, 孫怡, 妹尾麻美, 神崎真実, 川本静香, 中田友貴, 矢藤優子, 安田裕子, サトウタツヤ, 鈴木華子
56.	佐藤 達哉	Transition as Dynamic Semiosis: The Autoethnographic Approach and Trajectory Equifinality Modeling	2019年7月	The 16th European Congress of Psychology	Tepei Tsuchimoto and Tatsuya Sato
57.	佐藤 達哉	Transition to professional and career change in the	2019年7月	The 16th European Congress of Psychology	Taiyo Miyashita and Tatsuya Sato

		era of career diversification			
58.	佐藤 達哉	Voices of the Analysis: Alternative Orientation of Analytic Autoethnography	2019年8月	The 18th Biennial Conference of The International Society of Theoretical Psychology	Tepei Tsuchimoto and Tatsuya Sato
59.	佐藤 達哉	「共感」についての印象の検討 セマンティックプロフィールを用いた印象の特徴についての検討	2019年8月	日本パーソナリティ心理学会第28回大会	中妻拓也・サトウタツヤ
60.	佐藤 達哉	教員志望学生に対するキャリア支援モデルの生成 — 大学教師へのインタビューによる探求 —	2019年9月	日本心理学会第83回大会	土元哲平・サトウタツヤ
61.	佐藤 達哉	(DVD 放映) 欲望の文明から利他の文明へ	2019年9月	日本心理学会第83回大会	サトウタツヤ
62.	佐藤 達哉	1950年代までの日本における「共感」研究の動向と転換点 -1952年 前田論文の提言による転換点	2019年9月	日本心理学会第83回大会	中妻拓也・サトウタツヤ
63.	佐藤 達哉	キャリア多様化の時代におけるプロ人材への変容とキャリア転換?	2019年9月	日本心理学会第83回大会	宮下太陽・サトウタツヤ
64.	佐藤 達哉	発言者と被発言者の性別が第三者のセクシュアル・ハラスメント認識に与える影響	2019年9月	日本心理学会第83回大会	武田悠衣・中田友貴・サトウタツヤ
65.	佐藤 達哉	質的研究において「意味」を問う方法	2019年9月	日本心理学会第83回大会	サトウタツヤ
66.	佐藤 達哉	Dialogical Tension Within a Japanese Language Teacher at the September 11 Attacks	2019年9月	The 2nd Transnational Meeting on Trajectory Equifinality Approach	OZAWA, Ikumi, and SATO, Tatsuya
67.	佐藤 達哉	質的研究 (TEM) の実習デザイン——5日間で伝わること・伝わらないこと	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	神崎真実・菅井育子・隅本雅友・斎藤進也・安田裕子・サトウタツヤ
68.	佐藤 達哉	ものづくりと質的研究方法論の再考～「ものづくり」に質的研究はどうか?	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	隅本雅友・菅井育子・神崎真実・斎藤進也・安田裕子・サトウタツヤ
69.	佐藤 達哉	自動車・顧客を対象としたTEA (複線径路等至性アプローチ: Trajectory Equifinality Approach) の適用事例について	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	菅井育子・隅本雅友・神崎真実・斎藤進也・安田裕子・サトウタツヤ
70.	佐藤 達哉	セクハラ的情動性が司法面接で聴取した耳撃証言に与える影響	2019年10月	法と心理学会第20回大会	武田悠衣・中田友貴・サトウタツヤ
71.	佐藤 達哉	Auto-TEM for Understanding Career Support in Transition	2020年3月	The 3rd Transnational Meeting on Trajectory Equifinality Approach	TSUCHIMOTO, Tepei, and SATO, Tatsuya
72.	鎮目 真人	日本の年金-現状と課題	2019年6月	日韓社会保障セミナー「日本の年金、韓国の年金」	鎮目真人
73.	鎮目 真人	The Japanese Welfare Model: From the Corporate Centered System to the Major Corporation Centered System	2019年7月	The 16th Annual Conference of East Asian Social Policy Research Network East Asian Welfare Futures: between Productivism and Social Investment	Masato Shizume, Masatoshi Kato, and Ryoza Matsuda
74.	千葉 雅也	Hole and Stone: The Two Forms of Secret	2019年6月	Deleuze Camp	Masaya Chiba
75.	千葉 雅也	ディスカッション	2020年1月	AIの芸術制作と「人間性」—AIによって「人間」は変わるのか?	中ザワ ヒデキ, 谷口 忠大, 千葉 雅也
76.	DE ANTONI	Everybody Hurts: Feeling “transmission,” Spirit	2019年4月	JAWS Workshop 2019	

	Andrea	Possession and Religious Healing in Contemporary Japan			
77.	DE ANTONI Andrea	Living On The Edge: Towards a Comparison of Experiences with Spirit Possession in Contemporary Japan and Italy	2019年5月	Invited Lecture, University of Vienna	
78.	DE ANTONI Andrea	This Could Be Heaven or This Could Be Hell Haunting Affordances, Affective Correspondences and the Managements of Spirits in Contemporary Japan	2019年8月	Royal Geographical Society Annual International Conference	
79.	DE ANTONI Andrea	Blow up The Outside World: Comparing Experiences with Spirit Possession in Contemporary Japan and Italy Through Affective Correspondences and Embodied Memories	2019年9月	Invited Lecture, Aarhus University, School of Culture and Society, Anthropology Department	
80.	DE ANTONI Andrea	Every Breath You Take, Every Move You Make: Feeling Haunting Multiplicities Beyond 'Belief' in Contemporary Japan	2019年9月	Invited Lecture, Aarhus University, School of Culture and Society, Department of Global Studies	
81.	DE ANTONI Andrea	Return of the Phantom Stranger: Doing Ethnography of Spirits in Contemporary Japan and Italy as a "Practice of Feeling with the World"	2019年10月	Invited Lecture, Ca' Foscari University of Venice, PhD Program in Asian and North African Studies	
82.	DE ANTONI Andrea	Dei fantasmi ciascuno e' tremendo: Sentirsi guarire da possessione spiritica nel Giappone contemporaneo	2019年10月	Invited Lecture, University of Turin, Department of Cultures, Politics and Society	
83.	DE ANTONI Andrea	Lo spettro vedemmo venire di lontano: Verso una comparazione dei sintomi di possessione spiritica in Giappone e in Italia contemporanei	2019年10月	Invited Lecture, University of Bologna, Department of History, Cultures, and Civilization	
84.	DE ANTONI Andrea	The Beginning is the End is the Beginning: Embodied Memories, Imagination and Ontogenesis in Spirit Possession and Healing in Contemporary Japan and Italy	2019年10月	Invited Lecture, University of Vienna, Institut für Kultur- und Sozialanthropologie	
85.	DE ANTONI Andrea	The End is the Beginning is the End: Healing from Spirit Possession Beyond Cognition in Contemporary Japan and Italy	2019年10月	Invited Lecture, Masaryk University, Department for the Study of Religions, Brno	
86.	DE ANTONI Andrea	Somewhere Between Heaven and Hell: The Management of Spirits, Imagination and	2020年1月	International Workshop "Skills of Feeling with the World - Fifth Workshop: Affective Technologies of Memory and Imagination"	

		Memories in Contemporary Osorezan			
87.	富永 京子	Activists Seeking Authenticity in Social Movements: The Study of Activist Identity and Lifestyle Movement in Japan	2019年5月	EVF Discussion Workshop: Youth, Activism and Politics in Japan Today	
88.	富永 京子	「社会運動らしさ」を作り出す社会運動	2019年5月	第21回社会政治研究会	
89.	富永 京子	社会運動研究とNPO 研究の差異を考える——社会運動論から考える参加と組織化(2)	2019年6月	第21回日本NPO学会大会	
90.	富永 京子	欧州・東アジアの社会運動と社会運動論の現代的課題	2019年6月	APLセミナー	
91.	長瀬 修	Self-Advocacy and implementation of the CRPD in Japan	2019年6月	Europe in Action 201	
92.	長瀬 修	Japan's experience: Advocacy role of persons with disabilities and the civil society regarding CRPD through the case of Japan Disability Forum	2019年10月	The Third ASEM High-level Meeting on Disability Cooperation	
93.	長瀬 修	International Cooperation to Implement the CRPD and organizations of persons with disabilities	2019年10月	2019 Think Tank Forum on Disability Issues under the Belt and Road Framework、	
94.	長瀬 修	Inclusion in Society from the CRPD Perspective	2019年10月	East Asia Disability Studies Forum	
95.	長瀬 修	Accessibility, SDGs, and Convention on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD)	2019年12月	Shenzhen's Accessible City Construction and Sustainable Development Seminar、	
96.	中村 正	On the Necessity for Combining Therapeutic Justice with Clinical Family Social Work Regarding of Child Abuse and Domestic Violence	2019年7月	The XXXVIth International Congress on Law and Mental Health	Nakamura Tadashi
97.	中村 正	社会病理学者の職業倫理	2019年9月	第35回日本社会病理学会	中村正
98.	中村 正	男性性の傷つきに敏感なジェンダー臨床論のために(第8回・最終回)「男らしさ」へのエクソダス(脱出)	2019年11月	第11回対人援助学会	中村正・國友万裕
99.	西 成彦	世界文学は何語で書かれるか?	2019年6月	国際日本文化研究センターと大阪大学文学部日文学専攻共催シンポジウム	
100.	西 成彦	海の文学～「うみゆかば」から「大海に生きる夢」まで～	2019年10月	東アジアと同時代日本語文学フォーラム	
101.	松尾 匡	反緊縮経済諸理論の中のMMT	2019年7月	MMT 国際シンポジウム	松尾匡
102.	松尾 匡	MMTの経済理論をどう捉えるか	2019年7月	『MMT (Modern Monetary Theory: 現代貨幣理論)の経済理論をどうとらえるか』～革新的経済成長に向け、反緊縮経済政策を検証する。～	
103.	松尾 匡	総計一致命題が前提するニューメーラ	2019年10月	経済理論学会第67回大会	
104.	松尾 匡	反緊縮経済政策理論の体制変革展望—信用創造廃止論を中心に	2019年10月	経済理論学会第67回大会	松尾匡

105.	松尾 匡	プログレッシブ（革新的）な経済成長に向け、反緊縮経済政策を検証する	2019年11月	MMT（Modern Monetary Theory; 現代貨幣理論）の経済理論をどうとらえるか 第2回研究会	
106.	松尾 匡	反緊縮経済理論の諸潮流とその相互関係	2019年11月	第9回ケインズ学会	松尾匡
107.	松尾 匡	反緊縮経済理論の諸潮流とその相互関係	2020年1月	金融経済研究主催コンファレンス「長期停滞・低金利下の財政・金融政策：MMTは経済理論を救うか？」	松尾匡
108.	松原 洋子	「優生保護法の問題点-「優生」と「強制不妊」を中心に」	2019年6月	日本医学会連合第2回母体保護法（旧優生保護法）の検証のための検討会	
109.	松原 洋子	「生殖細胞系列のゲノム編集と生命倫理-議論の前提について」	2019年6月	日本学術会議哲学委員会いのちと心を考える分科会	
110.	松原 洋子	「日本の優生法の歴史」	2019年6月	115回日本精神神経学会学術総会委員会シンポジウム「旧優生保護法と精神科医療を検証する」	
111.	松原 洋子	「ヒトの遺伝子改変是非論の争点」	2019年11月	日本学術会議・学術フォーラム「ゲノム編集技術のヒト胚等への応用について考える」	
112.	村本 邦子	東日本大震災後のエスノグラフィーに見るコミュニティ・レジリエンス ～民話活動をめぐるコミュニティ・ナラティブから～	2019年6月	日本コミュニティ心理学会第22回大会	村本邦子
113.	村本 邦子	コミュニティ心理学におけるエスノグラフィーの可能性と課題	2019年6月	日本コミュニティ心理学会第22回大会	村本邦子
114.	村本 邦子	Recovery from a disaster and community resilience through the revitalization of folktales, festivals, folk religions: the role of external supporters in the Tohoku region of Japan	2019年6月	17th Biennial Conference on Community Research and Action	KONO Akiko, MURAMOTO Kuniko and KAWANO Kenji
115.	村本 邦子	日中両国におけるHWH（歴史の傷をいやす）プロジェクトの振り返りと平和教育への示唆	2019年8月	戦争と平和-人類運命共同体の観点から見た日本の中国侵略と南京大虐殺研究学術シンポジウム	村本邦子
116.	村本 邦子	9年目の福島-心理療法家に何ができるのか？	2019年8月	第11回アジア災害後心理支援国際シンポジウム	村本邦子
117.	村本 邦子	DVと児童虐待への対応～心理ケアの必要性～	2019年8月		
118.	村本 邦子	災禍を生き抜く女たち2：大津波を乗り越えて保育園経営を始めたBさんのライフストーリー	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	村本邦子
119.	村本 邦子	土地の力、ケアの力：「五味細凍」と台湾のケア	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	村本邦子
120.	村本 邦子	9年目の福島、34年目のチェルノブイリ～眼に見えないリスクを人々はどう生きるのか？	2019年11月	第11回対人援助学会	
121.	望月 茂徳	Interactive Arts and Disability: a conceptual model toward understanding participation	2019年11月	ArtsIT 2019 - 8th EAI International Conference: ArtsIT, Interactivity & Game Creation	Duckworth, Jonathan (RMIT University); Hullick, James (Jolt Arts Inc); Mochizuki, Shigenori (Ritsumeikan University); Pink, Sarah (Monash University); Imms, Christine (Australian Catholic University); Wilson, Peter (Australian Catholic University)
122.	望月 茂徳	インタラクティブな時間操作を伴う映像インスタレーションの制作	2020年3月	インタラクション2020 第24回一般社団法人情報処理学会シンポジウム	陳 品瑜, 斎藤 進也, 望月 茂徳

123.	望月 茂徳	ゴミ分別を促すインタラクティブゴミ箱	2020年3月	インタラクシオン 2020 第24回一般社団法人情報処理学会シンポジウム	丁 尔礫, 斎藤 進也, 望月 茂徳
124.	安田 裕子	唾液指標を用いた妊娠期女性のストレス状態についての検討	2019年5月	第37回日本生理心理学会大会	肥後克己・岡本尚子・孫怡・妹尾麻美・神崎真実・川本静香・中田友貴・矢藤優子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子
125.	安田 裕子	司法面接における多職種連携一心身のケアの視点を取りこんで	2019年6月	日本心理臨床学会第38回大会	安田裕子・上宮愛・田中晶子
126.	安田 裕子	What happens on 'Bifurcation Points' : Based on the methodology of Trajectory Equifinality Approach (TEA)	2019年8月	the 18th International Society for Theoretical Psychology	Yasuda, Y.
127.	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) を学ぶ—実践編	2019年9月	日本心理学会第83回大会	安田裕子・サトウタツヤ
128.	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) を学ぶ—理論編	2019年9月	日本心理学会第83回大会	サトウタツヤ・安田裕子
129.	安田 裕子	未来志向のものづくり—質的なアプローチがなせること	2019年9月	日本心理学会第83回大会	安田裕子・サトウタツヤ・隅本雅友・斎藤進也・川野健治・宮下太陽・神崎真実
130.	安田 裕子	子どもから話をきく方法—司法面接 (NICHD ガイドライン) を学ぼう (2) (事実確認とケアの連携 ファーストコンタクト) (指定討論)	2019年9月	日本心理学会第83回大会	羽瀧由子・仲真紀子・田中周子・上宮愛・佐々木真吾・田中晶子・安田裕子・赤嶺亜紀
131.	安田 裕子	子どもから話をきく方法—司法面接 (NICHD ガイドライン) を学ぼう (1)	2019年9月	日本心理学会第83回大会	羽瀧由子・上宮愛・安田裕子・赤嶺亜紀・佐々木真吾・仲真紀子・田中周子・田中晶子
132.	安田 裕子	子どもから話をきく方法—司法面接 (NICHD ガイドライン) を学ぼう (3)	2019年9月	日本心理学会第83回大会	羽瀧由子・田中晶子・安田裕子・田中周子・赤嶺亜紀・上宮愛・仲真紀子・佐々木真吾
133.	安田 裕子	全体会 EVERYTHING IS ALL RIGHT WITH TEA (as long as it keeps developing) (あらゆることがTEAと共にあって良い (それが発達し続けている限りにおいて)) (企画・司会)	2019年9月	The 2nd Transnational Meeting on TEA (第2回TEA国際学会)	安田裕子・Jaan Valsiner・土元哲平・宮下太陽・小澤伊久美・伴野崇生・滑田明暢・サトウタツヤ
134.	安田 裕子	TEAとDSTを用いた「キャリアワークシート」の教育実践—語りへの接近	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	安田裕子・番田清美
135.	安田 裕子	子育て中の妊娠女性における生活の困難	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	妹尾麻美・三品拓人・安田裕子
136.	安田 裕子	ものづくりと質的研究方法論の再考—「ものづくり」から見た質的研究の期待と展望	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	隅本雅友・菅井育子・神崎真実・斎藤進也・安田裕子・サトウタツヤ
137.	安田 裕子	自動車・顧客を対象としたTEA (Trajectory Equifinality Approach) —質的分析による未来ものづくりの可能性	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	菅井育子・隅本雅友・神崎真実・斎藤進也・安田裕子・サトウタツヤ
138.	安田 裕子	質的研究 (TEM) の実習デザイン—5日間で伝わること・伝わらないこと	2019年9月	日本質的心理学会第16回大会	神崎真実・菅井育子・隅本雅友・斎藤進也・安田裕子・サトウタツヤ菅井育子・隅本雅友・神崎真実・斎藤進也・安田裕子・サトウタツヤ

139.	安田 裕子	シームレスな対人支援に基づく人間科学の創成	2020年3月	日本発達心理学会第31回大会	矢藤優子・肥後克己・妹尾麻美・安田裕子・サトウタツヤ・神崎真実
140.	安田 裕子	保育カンファレンスにおける保育者の感情—視覚的ツール使用時における保育者の語りと脳機能イメージング	2020年3月	日本発達心理学会第31回大会	香曾我部琢・中坪史典・高橋健介・境愛一郎・安田裕子・大森隆司
141.	渡辺 克典	吃音者のインタラクショナー—相互行為秩序・逸脱・儀礼	2019年5月	ゴフマン理論の経験的応用のための研究会（関西ゴフマンフォーラム series 1-1）	
142.	渡辺 克典	社会学研究から見た吃音の検討	2020年2月	京都言友会2019年度吃音講座第3講	
143.	渡辺 克典	『日本気象行政史の研究』合評会	2019年2月	立命館大学生存学研究所研究プロジェクト「生存をめぐる制度編成研究プロジェクト」	
144.	渡辺 克典	『障害社会学という視座』合評会	2020年2月	立命館大学生存学研究所	
145.	福間 良明	「特攻の町・知覧」の戦後史——「他者の記憶」の逆輸入と「無難さ」の政治学	2019年7月	同志社社会学研究学会（2019/07/27）	
146.	福間 良明	The Arguments on War Experience in postwar Japan and "criticism of victim mentality"	2020年3月	Conference:Challenge of Reconciliation Studies (新型コロナウイルス感染拡大のために出席できなかったため、英文予稿のみ発表)	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1.	有馬斉著『死ぬ権利はあるか——安楽死、尊厳死、自殺補助の是非と命の価値』合評会	立命館大学 朱雀キャンパス1階 多目的室	2019年9月		なし
2.	映画『女を修理する男』上映会	立命館大学 衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館 ミニシアター	2019年10月	40名	後援：立命館SDGs推進本部
3.	遠離遭遇——人と時代を書く	立命館大学衣笠キャンパス 創思館	2019年6月	50名	
4.	講演会「障害者の地域での自立生活と障害者権利条約」	立命館大学朱雀キャンパス	2020年1月		科研費・基盤研究（C）「東アジアにおける障害者権利条約の実施と市民社会」
5.	多文化共生と労働 — 東九条×若者×労働の交錯	京都市地域・多文化交流ネットワークサロン	2019年12月		京都市地域・多文化交流ネットワークサロン
6.	2019年度 第2回（通算第19回）現代社会エスノグラフィ研究会「フィリピン人と家族になって現在—『フィリピンパブ嬢の社会学』以降の私」	立命館大学 衣笠キャンパス 学術館	2020年1月		なし
7.	2019年度 第3回（通算20回）現代社会エスノグラフィ研究会 研究報告「観客がつくる舞台—マダンパンの拡張としての東九条マダン」	Books×Coffee Sol.	2020年1月		なし
8.	榊原賢二郎編著『障害社会学という視座——社会モデルから社会的反省へ』合評会	立命館大学 朱雀キャンパス	2020年2月	30名	なし

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1.	立岩 真也	やまゆり園事件から3年「生きる価値」の大切さ問う	『朝日新聞』	2019年7月20日 ～2019年7月20日
2.	立岩 真也	障害学会理事会「NHK「彼女は安楽死を選んだ」	NHK	2019年12月15日

		に対する指摘への応答を求める」(障害学会理事会) NHKに対して/放送倫理・番組向上機構に対して		
3.	立岩 真也	相模原事件を考える～公判を前にも生きることと優生思想	毎日新聞	2019年12月18日
4.	立岩 真也	ともに生きることと優生思想 社会学者・立岩さんの視点——相模原事件を考える～公判を前に	毎日新聞	2019年12月26日
5.	立岩 真也	生存学奨励賞講評	立命館大学 衣笠キャンパス	2019年12月27日
6.	立岩 真也	生きることの価値」問えやまゆり事件判決	朝日新聞	2020年3月23日
7.	大谷 いづみ	海外と日本のアクセスの違い	第18回全国車いすアクセス・マニア集会 in 京都 II 「自律的な移動」と「障害者の自立生活の課題と展望」 於:京都市醍醐交流会館	2019年4月20日～
8.	桜井 政成	「災害に特化 NPO 誕生」(インタビュー記事)	毎日新聞(全国版 2面)	2019年1月10日～
9.	佐藤 達哉	TEAの社会実装	キャリアテックワーキンググループ	2019年7月19日～
10.	佐藤 達哉	研究倫理について	中京学院大学学内研修会	2019年8月27日～
11.	佐藤 達哉	「当たり屋グループが来ている」危険伝えたい善意連鎖	東奥日報	2020年3月5日～
12.	佐藤 達哉	デマ拡散どう防ぐ 立命館大、サトウタツヤ教授「一歩立ち止まって」	産経新聞	2020年3月6日～
13.	DE ANTONI Andrea	International Workshop "Skills of Feeling with the World - Fifth Workshop: Affective Technologies of Memory and Imagination" - Organizer		2020年1月18日～2020年1月19日
14.	富永 京子	富永京子のモジモジ系時評	朝日新聞東京本社版	2019年4月1日～
15.	長瀬 修	障害と社会: 国際障害者年ー「19年の薔薇」とキヒア	多様性の経済学 (REDDY)	2019年7月～2019年7月
16.	長瀬 修	「国連障害者権利委員会での審査に向けて」(鼎談: 田中伸明、藤原久美子)	『視覚障害』第380号、2019年12月25日、2-19頁	2019年11月～2019年12月
17.	長瀬 修	点字毎日 障害者権利条約の政府報告 建設的対話に向けて/上 立命館大生存学研究所・長瀬修教授に聞く	毎日新聞	2020年1月26日
18.	長瀬 修	武漢ー障害学国際セミナー、桜、水餃子	http://www.reddy.e.u-tokyo.ac.jp/act/essay_serial/nagase.html	2020年2月5日～
19.	松原 洋子	「強制不妊問題と国の責任」	NHK 視点・論点	2019年4月17日～2019年4月17日
20.	松原 洋子	「強制不妊判決「8合目までいって落ちた」 請求阻んだ壁」(コメント)	『朝日新聞』朝刊	2019年5月29日～2019年5月29日
21.	松原 洋子	「異例裁決、優生政策検証阻む」(コメント)	『京都新聞』(朝刊)	2020年3月7日～2020年3月7日

22.	美馬 達哉	毎日新聞 2020年3月7日 新型コロナ 感染防止、制約どこまで？ 江川紹子氏、美馬達哉氏らに聞く 「やめる目安を事前に」	毎日新聞	2020年3月7日 ～2020年3月7日
23.	美馬 達哉	視標「東京五輪1年延期」 「封じ込め」対策に限界 団結の理念に立ち返れ 立命館大大学院教授 美馬達哉	共同通信	2020年3月25日 ～2020年3月
24.	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「友達関係の悩み」	中日子どもウィークリー親の時間子の時間	2018年11月17日 ～2019年11月17日
25.	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「自分に目を向けて」	中日子どもウィークリー	2019年4月6日 ～2019年4月6日
26.	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「台湾での貧困教育活動」	中日子どもウィークリー	2019年5月4日 ～2019年5月4日
27.	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「潜伏キリシタン」	中日子どもウィークリー	2019年6月1日 ～2019年6月1日
28.	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「人生を楽しむ」	中日子どもウィークリー	2019年6月29日 ～2019年6月29日
29.	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「ホロコースト博物館にて」	中日子どもウィークリー	2019年7月27日 ～2019年7月27日
30.	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「学校は義務？権利？」	中日子どもウィークリー	2019年8月24日 ～2019年8月24日
31.	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「外国人と交流を」	中日子どもウィークリー	2019年9月21日 ～2019年9月21日
32.	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「失敗しても大丈夫」	中日子どもウィークリー	2019年10月19日 ～2019年10月19日
33.	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「子どもの意見表明権」	中日子どもウィークリー	2019年11月 ～2019年11月16日
34.	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「朝起きる、起きない」	中日子どもウィークリー	2019年12月14日 ～2019年12月14日
35.	村本 邦子	中日子どもウィークリー親の時間子の時間 「社会の人材として」	中日子どもウィークリー	2020年1月11日 ～2020年1月11日
36.	望月 茂徳	インクルーシブなデジタルデザイン ～未来の体験をソウゾウする～	FUJITSU Knowledge Integration Base PLY OSAKA	2020年2月17日 ～2020年2月17日
37.	安田 裕子	The transformation of value of a Japanese	University of Luxembourg, Belval Campus, Belval, Luxembourg, University of Luxembourg Second Annual Summer School on Cultural Psychology,	2019年6月19日

		woman's infertile experience: with Trajectory Equifinality Modeling (TEM) (ポスター発表)	"CULTURAL PSYCHOLOGY AND HUMAN DEVELOPMENT IN THE LIFE COURSE: Cultural Psychology as an Interdisciplinary Synthesis"	～2019年6月19日
38.	安田 裕子	The qualitative analysis of the process and transition about woman's infertile experience with TEA(Trajectory Equifinality Approach): Focusing on the change of sense of values (セミナーでの発表)	Sigmund Freud PrivatUniversität Berlin, Belrin, Germany, Cultural Psychology Lecture at the SFU Berlin	2019年7月1日 ～2019年7月1日
39.	安田 裕子	質的データ分析法 複線径路等至性アプローチの基礎 (講習会)	武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス、日本質的心理学会・日本精神衛生学会 共催ワークショップ こころの健康に関する質的研究法 複線径路等至性アプローチ (TEA)	2019年11月24日 ～2019年11月24日
40.	安田 裕子	オープニングレクチャー 「人のライフとキャリアをとらえる TEA という質的研究法 一個人の多様な願いに接近する」	第2回 立命館大学 ものづくり質的研究センター研究会	2020年1月17日 ～2020年1月17日
41.	安田 裕子	子の奪い合い 紛争の心理学	R-GIRO 「修復的司法観による少子高齢化社会に寄り添う法・社会システムの再構築」第55回修復的司法セミナー「父母間での子の奪い合い 紛争と修復的司法」, 立命館大学朱雀キャンパス1階多目的室	2020年2月8日 ～2020年2月8日
42.	安田 裕子	TEAを用いた研究の基本的なプロセス	第3回 立命館大学 ものづくり質的研究センター研究会, 立命館大学大阪いばらきキャンパス B棟5階 B515-516 研究会室	2020年2月28日 ～2020年2月28日
43.	安田 裕子	過程と発生をとらえる TEA-多様性・複線性を可視化する TEM を中心に	TEA と日本語教育研究会, 立教大学池袋キャンパス (オンライン研究会)	2020年3月11日 ～2020年3月11日
44.	安田 裕子	「学振申請書作成講座」日本学術振興会特別研究員申請内容ファイル作成のポイント (講習会)	茨木市・立命館大学、2021年度 日本学術振興会特別研究員申請ガイダンス	2020年3月16日 ～2020年3月16日
45.	山田 洋子	沖縄宮古島におけるイニシエーションの調査		1995年～

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	千葉 雅也	財団法人野間文化財団	第41回野間文芸新人賞	『デッドライン』	2019年11月

7. 科学研究費助成事業

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1.	立岩 真也	病者障害者運動史研究——生の現在までを辿り未来を構想する	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
2.	立岩 真也	重度な障がいのある人がどこでも安心して暮らせるための看護支援プログラムの開発	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
3.	立岩 真也	障害基礎年金制度の成立背景の明確化及び現行の障害者所得保障の問題改善について	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	分担
4.	大谷 いづみ	生命倫理学前史・成立史における安楽死論とキリスト教の相剋に関する米英日比較研究	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表

5.	小川 さやか	アジア・アフリカ諸国間の模造品取引に関する文化人類学的研究—携帯電話を事例に	若手研究(A)	2016年4月	2020年3月	代表
6.	小川 さやか	アフリカ遊動社会における接合型レジリアンス探求による人道支援・開発ギャップの克服	基盤研究(A)	2018年4月	2023年3月	分担
7.	小川 さやか	インフォーマル化するアジア：グローバル化時代のメガ都市のダイナミクスとジレンマ	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	分担
8.	岸 政彦	沖縄戦の生活史と戦後沖縄社会の構造変容	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
9.	鎮目 真人	公的年金制度の制度改革と脱貧困化に向けた政策立案	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
10.	鎮目 真人	「市民」に必要な能力は何か：シティズンシップ教育のプログラム開発に関する基礎研究	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担
11.	千葉 雅也	自閉症に関する哲学と医学の学際的研究：ドゥルーズ哲学と自閉症研究の融合	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	分担
12.	富永 京子	メディア文化史における「1970年代」の戦後史位置の再考	基盤研究(B)	2017年4月	2022年3月	分担
13.	富永 京子	地域の「受援力」概念構築と応用可能性に関する総合的研究	挑戦的研究(萌芽)	2018年6月	2021年3月	分担
14.	富永 京子	社会運動における排除・周縁化のメカニズム——活動従事者の日常に注目して	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
15.	長瀬 修	病者障害者運動史研究——生の現在までを辿り未来を構想する	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	分担
16.	長瀬 修	東アジアにおける障害者権利条約の実施と市民社会	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	代表
17.	中村 正	男性性と暴力の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
18.	中村 正	脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学際的総合的研究	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	分担
19.	美馬 達哉	発振操作による動的ネットワークの再組織化	新学術領域研究	2015年6月	2020年3月	代表
20.	美馬 達哉	非線形発振現象を基盤としたヒューマンネイチャーの理解	新学術領域研究	2015年6月	2020年3月	分担
21.	美馬 達哉	非線形発振現象を基盤としたヒューマンネイチャーの理解	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)	2015年11月	2020年3月	分担
22.	美馬 達哉	脳卒中患者に対するVR技術を用いたトレッドミル歩行の効果と回復メカニズムの解明	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
23.	美馬 達哉	臨床音楽による癒し感の生理・心理的定量手法の開発—音楽併用リハビリテーション—	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	分担
24.	美馬 達哉	記憶・想起の脳機能ネットワークの解明と認知症早期治療システムの構築	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	分担
25.	美馬 達哉	新規非侵襲的脳刺激が拓くネオ・リハビリテーションとそのシステム脳科学的解明	基盤研究(A)	2019年4月	2023年3月	代表
26.	美馬 達哉	静磁場暴露による低周波脳律動の誘導と関連領域との相互結合性の変化	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担
27.	美馬 達哉	マイノリティアークタイプの構築・研究・発信：領域横断的ネットワークの基盤創成	挑戦的研究(萌芽)	2019年6月	2021年3月	代表
28.	望月 茂徳	共生型高付加価値社会におけるインクルーシブなインタラクティブメディアの開発	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1.	岸 政彦	戦後沖縄社会の構造変容—戦争体験と戦後の生活史の実証分析	第47回(平成30年度)三菱財団人文科学研究助成	2018年10月	2019年9月	代表

2.	富永 京子	「若者が社会について語る場」としての雑誌投稿・ラジオ聴取の再検討	財団せせらぎ 助成事業	2018年10月	2019年10月	代表
3.	富永 京子	新しい中間層の可視化理論とその実証分析:リベラル派中間市民(コモン・シティズン)の新たな供給源を探る	三菱財団 研究助成	2018年	2019年	分担
4.	富永 京子	「ハガキ職人」から見るラジオ文化の創造と再生産	公益信託高橋信三記念放送文化振興基金 研究助成	2018年	2019年	代表
5.	富永 京子	1970年代における「若者」表象の研究——政治の季節と大衆消費社会のはざま	サントリー文化財団 人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成	2018年	2019年	代表
6.	富永 京子	若者が社会について語るコミュニケーション・メディアとしてのラジオ	2018年度公益財団法人電気通信普及財団 研究調査助成	2019年4月	2020年3月	代表
7.	富永 京子	日独の若者におけるライフスタイルを通じた政治と社会運動	山岡記念財団 研究助成	2019年4月	2020年3月	代表
8.	岸 政彦	戦後沖縄社会の構造変容—戦争体験と戦後の生活史の実証分析	第47回(平成30年度)三菱財団人文科学研究助成	2018年10月	2019年9月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	立命太郎	特許(国内)	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本